

浜田教育事務所だより

発行

平成21年5月13日
第29号

浜田教育事務所

平成二十一年度のスタートにあたって

所長 驛 田 省 吾

平成二十一年度が始まって、早くも一ヶ月余りが経過したところですが、教職員の皆様には、新たな学校体制の下で新たな目標に向かって歩み出しておられることと存じます。

五月初めから管内全ての小・中学校を順に訪問させていただいております。年度初めの時期の訪問で恐縮しております。これまで二十校近くでお話を聞かせてもらっておりませんが、各学校それぞれに、子どもたちの様子、保護者の願い、地域の実態に合わせたカリキュラムを編成しておられ、頭の下がる思いがしております。

なかでも、少子高齢化、過疎化の進む石見地方にあつては、地域とのつながりは欠くことのできないものであり、多くの学校で地域的人的・物的資源を生かしたカリキュラムの編成を工夫しておられることがうかがえました。県教育委員会としても昨年度より、人的支援の核となる「学校支援地域本部事業」を市町それぞれに立ち上げたり、種々の非常勤講師の配置事業を継続して行ったりしているところでは、

先ごろ読んだ柳田邦男氏の著書『言葉の力、生きる力』の中で、氏は「人が追い求める原動力となるものが幼少期に培われていくこと、また今の子どもたちがテレビや携帯、パソコンといったものに囲まれ、人との接触の機会が希薄になって、言語の発達の遅れ、ひいては心の発達の遅れを示すものにもなる。」と危機感を示すとともに、子どもを育てていくには、周囲の人々との関わり（コミュニケーション）が大切であることを指摘しておられます。

新学習指導要領では、教育内容の主な改善事項として「言語活動の充実」が掲げられており、各学校でもこの点を意識して取り組んでおられることと存じます。少子高齢化のマイナス面だけに目を向けず、「経験豊かな高齢者に囲まれている」「子どもたちを見守ってもらえる地域の人に支えられている」ととらえ、プラスの面を生かしていくといった発想の転換を教育活動の中に生かしていただきたいと思います。

管内の各小・中学校において、校長先生のリーダーシップのもと、教職員の皆様が元気で職務に励まれ、子どもたち一人一人が笑顔で自分の力を伸ばしていけることを祈念しております。

